

# 新型インフルエンザ対策

感染対策室長 藤澤 稔

## 1. 日本でも初の死亡例が報告

5、6月に新聞・報道をにぎわせた「新型インフルエンザ」の言葉を聞かなくなって久しくなります。皆さんも忘れかけていませんか？日本でも8月中旬に沖縄で初の死亡例が報告され、現在までに3名の死亡が確認されています。いずれも慢性の持病を抱えていた患者さんでした。世界中でこのような患者さんが亡くなっているという報道がありましたが、この現実を日本でも目の当たりにしたわけです。したがって慢性の持病を持つ患者さんは、今年のインフルエンザには十分注意する必要があります。



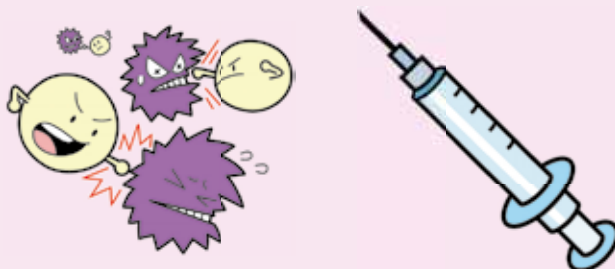
感染対策室長 藤澤 稔

## 2. 患者数は増えています！

政府が患者総数を把握しなくなり報道回数が減ったこと、通常インフルエンザがはやらない夏季をすぐに迎えたことから、「あれっ、ひょっとして新型インフルエンザは終息したのかな？」と思いがちですが、決してそんなことはありません！高温多湿では通常インフルエンザウィルスは広がりにくいはずですが、夏場でも新型インフルエンザの集団感染はあちこちで報告されています。夏巡業中の大相撲力士やプロ野球の日本ハムファイターズから新型インフルエンザが発生したことも記憶に新しいところです。患者数は右肩上がりが増えており、現在インフルエンザと診断された患者さんの約9割以上が新型インフルエンザであろうとされています。

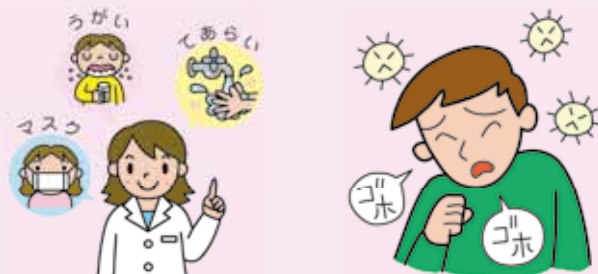
### 3. ワクチンはどうなっているの？

最終的に「季節性インフルエンザワクチン」と「新型インフルエンザワクチン」のどちらがどのくらい製造されるのか、最終報告を待っているところです。わたしたちも医療機関に患者さん用のワクチンがどれだけ支給されるのか把握できず、政府からの正式な発表もまだありません。専門家の意見も聞きながら、決めていくことになりそうです。



### 4. 予防が何よりも大事

これからインフルエンザがはやる冬に備えて、今年は何よりも予防対策が大事です。今回の冬は「季節性インフルエンザ」「新型インフルエンザ」という2つの敵を相手にしなければいけないのです。マスク、手洗い、うがいを徹底し、咳をしている人からはなるべく離れるようにしましょう！



### 5. 治療はどこでできるの？

新型インフルエンザの診察・治療は当初、順天堂大学練馬病院のように「発熱外来」を設置した医療機関で行っていました。しかし、日本全国で患者さんが急増したことから一部の医療機関（透析専門病院や産科病院など）を除いて治療が可能になっています。受診の際には診察が可能かどうかの電話を入れるのがよいと思われますが、わからない場合は保健所に相談してみてください。